

いる事を分析し、この事は東北支部家政学会に於いて発表した。従って望ましい食慣行を成立させるには、農村の食慣行を支配している諸条件の改善が、栄養献立普及に先行して行うべきであると考え、先の調査対象村から改善農家を撰定し、5ヶ年間継続して以上の難点から実施し、改善前と改善後の変質について、平常食・農事食・晴食（年中行事食）に分けて栄養構造を分析し、その結果の資料から問題点を摘出して発表する。

## D-27 食慣行の生態調査（其の 2）

—農村の食慣行の変質に及ぼす要因について—

岩手大学 <sup>クガノハシ</sup> 鷹鷲 テル

現在の食慣行は、社会的条件・自然的条件に立脚して成立してきたのであるから、単に栄養科学のみで栄養改善を実施してもむづかしい。この研究は昭和 27 年農山漁村について家政学立場から調査し、その地域の生産構造、気候・婦人労働構成・経済構成・食品の調達方法・家族関係・晴食慣行・食物禁忌思想によって支配されて